

ふりがな

いしい ひとなり

氏名

石居 人也

1. 学歴

- 1997年3月 中央大学文学部史学科卒業
- 1997年4月 中央大学大学院文学研究科博士前期課程入学
- 1999年3月 中央大学大学院文学研究科博士前期課程修了
- 1999年4月 中央大学大学院文学研究科博士後期課程入学
- 2011年3月 中央大学大学院文学研究科博士後期課程修了

2. 職歴・研究歴

- 1999年4月 町田市立自由民権資料館学芸員（～2012年3月）
- 2012年4月 一橋大学大学院社会学研究科准教授（～2016年3月）
- 2012年4月 中央大学人文科学研究所客員研究員（～2017年3月）
- 2016年4月 一橋大学大学院社会学研究科教授（現在に至る）
- 2020年4月 中央大学政策文化総合研究所客員研究員（現在に至る）
- 2020年10月 日本学術会議連携会員（現在に至る）

3. 学内教育活動

（A）主な担当講義名

（a）学部学生向け

日本社会史総論（日本史）、社会史史料講読、社会史方法論、歴史学、社会研究入門ゼミ、導入ゼミ、社会研究の世界（リレー）

（b）大学院

日本社会史Ⅱ（近代）、日本社会史Ⅲ（現代）、社会科学研究の基礎、先端課題研究、アーカイブズ総論、アーカイブズ資源研究、アーカイブズ管理研究Ⅰ、インターンシップ、リサーチワークショップ、社会科学のなかのジェンダー（リレー）、平和の思想（リレー）

（B）ゼミナール

学部後期ゼミ、大学院ゼミ

4. 主な研究テーマ

近代の日本社会を、前近代からの展開および現代との往還を意識しながら研究。研究テーマの柱は、①生・老・病・死をめぐる人と社会の歴史研究、②都市と郊外の地域社会史。①では、近代日本を生きた人びとが、その傍らにある老いや病や死、高齢者や病者や死者とどのように向きあってきたのか、あるいは向きあわずにきたのかを、それぞれの時代や社会の文脈のなかで把握する作業をとおして、近代の日本社会のありようについて考える。②では、東京・多摩をおもなフィールドとして、地域社会に生きた人びとの経験や思いをみつめる作業をとおして、かれらを取りまく社会的な規範・価値・意識のありようと、それが地域社会においてどのように現象するのかを追究する。①②のアプローチを柱に、近代の日本社会の姿をとらえるとともに、現代の日本社会を相対的にとらえなお

す。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- ・池享・櫻井良樹・陣内秀信・西木浩一・吉田伸之編『みる・よむ・あるく 東京の歴史 第9巻(地帯編6 多摩I)』(共著), 吉川弘文館, 2020.12.10, p.20-25, 74-91, 98-115
- ・府中市編『新府中市史 近現代資料編 上』(共編著), 府中市, 2019.3
- ・日本史研究会・歴史科学協議会・歴史学研究会・歴史教育者協議会編『創られた明治、創られる明治—「明治150年」が問いかけるもの—』(共編著), 岩波書店, 2018.12.19, p.v-x, 35-62, 215-248
- ・成田龍一・原田敬一・荒川章二・大串潤児・石居人也・武井弘一ほか編『新日本史A(新訂版)』(共編著), 実教出版, 2018.1.25
- ・歴史学研究会編『日本史年表 第5版』(共編著), 岩波書店, 2017.10.27
- ・武相の女性・民権とキリスト教研究会・町田市立自由民権資料館編『武相の女性・民権とキリスト教』(共著), 町田市教育委員会, 2016.5
- ・八王子市史編集委員会編『新八王子市史 通史編5(近現代上)』(共編著), 八王子市, 2016.3
- ・阿部安成・石居人也監修『選ばれた島』(共監修・解説), 近現代資料刊行会, 2015.6.20, p.617-650
- ・歴史学研究会編『歴史学と、出会う—41人の読書経験から—』(共編著), 歴史学研究会(青木書店), 2015.5.20, p.3-4, 222-227, 265-271, 273-274
- ・八王子市史編集委員会編『新八王子市史 資料編6(近現代2)』, 八王子市, 2014.3
- ・『週刊朝日百科 新発見!日本の歴史 38』(共著), 朝日新聞社, 2014.3
- ・町田市立自由民権資料館編『明治の学び舎—地域における学びと教えの足跡をたずねて—』(共著), 町田市教育委員会, 2011.3.31, p.2-39, 69-85
- ・町田市立自由民権資料館編『民権期武相の新聞・雑誌—地域からの発信/地域への発信—』(共著), 町田市教育委員会, 2008.3.31, p.2-33, 54-96
- ・町田市立自由民権資料館編『武相自由民権史料集 全6巻』(共著), 町田市教育委員会, 2007.12.25, 第4巻 p.107-165, 第5巻 p.167-246, 322-401, 404, 407-408
- ・峰岸純夫監修『図説 八王子・日野の歴史』(共著), 郷土出版社, 2007.2.9, p.182-185, 190-191
- ・町田市立自由民権資料館編『山上卓樹・カクと武相のキリスト教—響きあう信仰と運動—』(共著), 町田市教育委員会, 2006.3.31, p.2-33, 96-99
- ・宮地正人・佐々木隆・木下直之・鈴木淳監修『ビジュアル・ワイド 明治時代館』, 小学館, 2005.12.10, p.122-123, 202-211
- ・町田市立自由民権資料館編『多摩/TAMA—住民意識と地域イメージの物語—』(共著), 町田市教育委員会, 2004.3.31, p.2-33, 69-90
- ・解放出版社編『人権でめぐる博物館ガイド』(共著), 解放出版社, 2003.12, p.50-51
- ・武蔵村山市史編さん委員会編『武蔵村山市史 通史編 下巻』(共著), 武蔵村山市, 2003.3
- ・西村絢子・藤村久美子・牧原憲夫編『わたしとわたしたち—人権と民権を考える—』(共著), 町田市教育委員会, 2001.3, p.92-95
- ・武蔵村山市史編さん委員会編『武蔵村山市史 資料編 近代・現代』(共著), 武蔵村山市, 2001.3, p.65-78, 889-890
- ・町田市立自由民権資料館編『大阪事件—民権と国権のはざままで—』(共著), 町田市教育委員会, 2000.3.31, p.106-

(b) 論文

- ・「「いきる」ための知・実践における「科学」—近代日本の「癩」をめぐる—」『歴史学研究』 通巻 1007 号, p.104-112, 歴史学研究会 (績文堂出版), 2021.3
- ・「「衛生」と「自治」が交わる場所で—「コロナ禍」なるものの歴史性を考える—」歴史学研究会編『コロナの時代の歴史学』, p.100-108, 績文堂出版, 2020.12
- ・「大正～昭和初期におけるセルフメディケーションとしての配置薬—愛知県の配置販売—個人業者の史料の検討—」(共著) 『薬史学雑誌』 第 55 巻第 1 号, p.83-91, 日本薬史学会, 2020.6
- ・「ハンセン病者・療養者の隔離をめぐる「尊厳」—近現代の日本社会における—」加藤泰史・小島毅編『尊厳と社会 下巻』, p.31-57, 法政大学出版局, 2020.3
- ・「足尾銅山をめぐるふたつの運動」『日韓歴史共同研究プロジェクト第 19・第 20 回シンポジウム報告書』, 日韓歴史共同研究プロジェクト, 2019.3
- ・「「攻囲」されつつ「攻囲」するからだへの問い」『日本教育史往来』 通巻 237 号, p.3-5, 日本教育史研究会, 2018.12
- ・「地域社会における文明開化の風景—多摩の地域指導層の視線から—」松尾正人編『近代日本成立期の研究』, 岩田書院, 2018.3
- ・「史学科出身者の社会的役割」歴史学研究会編『歴史を社会に活かす—楽しむ・学ぶ・伝える・観る—』, p.165-168, 東京大学出版会, 2017.5
- ・「「現場」から組み立てる歴史学」歴史学研究会編『第 4 次 現代歴史学の成果と課題 第 3 巻』, 績文堂出版, 2017.5
- ・「橋樹の民権家、井田文三とその同志たち」町田市立自由民権資料館編『武相民権家列伝』, 町田市教育委員会, 2017.3
- ・「生・病・死、生存の歴史学」東京歴史科学研究会編『歴史を学ぶ人々のために—現在をどう生きるか—』, p.303-320, 岩波書店, 2017.3
- ・「「を生きた」「に生きる」を問う—『星ふるさとの乾坤』と『理性主義と排除の論理』を読む—」(共著) 『滋賀大学経済学部研究年報』 通巻 23 号, p.79-97, 滋賀大学経済学部, 2016.11
- ・「衛生観の生成と医学・医療の近代化」明治維新史学会編『講座 明治維新 第 10 巻』, p.226-253, 有志舎, 2016.10
- ・「近現代日本のハンセン病と「絶対隔離」」歴史教育者協議会編『歴史地理教育』 通巻 854 号, p.56-61, 歴史教育者協議会, 2016.9
- ・「隔離される者／する者にとっての「地域」—瀬戸内海のハンセン病療養所をめぐる—」東京歴史科学研究会編『人民の歴史学』 通巻 201 号, p.15-27, 東京歴史科学研究会, 2014.9
- ・「社会問題の「発生」」大津透・桜井英治・藤井讓治・吉田裕・李成市編『岩波講座 日本歴史 第 16 巻 (近現代 2)』, p.281-314, 岩波書店, 2014.6
- ・「遍歴する医家—「衛生」の提唱者、長与専斎—」『青少年問題』 通巻 654 号, p.50-55, 青少年問題研究会, 2014.4
- ・「香川県大島の療養所に展開した自治の痕跡—療養所空間における〈生環境〉をめぐる実証研究—」(共著) 『滋賀大学環境総合研究センター研究年報』 第 10 巻第 1 号, p.49-68, 滋賀大学環境総合研究センター, 2013.8
- ・「「死」をめぐる都市装置—近代東京における墓地と地域社会—」鈴木勇一郎・高嶋修一・松本洋幸編『近代都市の装置と統治—1910～30 年代—』, p.163-188, 日本経済評論社, 2013.2
- ・「授業をとおして「日本」と向きあう—わたしの授業実践ノート—」『東京外国語大学 日本研究教育年報』 通巻 16 号, p.69-76, 東京外国語大学 日本課程, 2012.3
- ・「コンクリート塊の牽引—瀬戸内国際芸術祭 2010 の解剖台展示とハンセン病療養所での死をめぐる生活環境—」(共著) 『滋賀大学環境総合研究センター研究年報』 第 8 巻第 1 号, p.89-102, 滋賀大学環境総合研究

センター, 2011.10

- ・「ハンセン病表象としての映画「小島の春」—1940年における隔離の描かれ方とその観られ方—」黒川みどり編『近代日本の「他者」と向き合う』, p.148-173, 部落解放・人権研究所（解放出版社）, 2010.10
- ・「世紀転換期東京の地域〈衛生〉—「地域私立衛生会」をめぐる語りと論理—」『近代都市の衛生環境 東京編別冊』, p.33-67, 近現代資料刊行会, 2009.9
- ・「自由民権運動と部落」黒川みどり編『部落史研究からの発信 第2巻 近代編』, p.31-44, 部落解放・人権研究所（解放出版社）, 2009.6
- ・「山上卓樹の足跡—自由民権・キリスト教・被差別部落—」『解放研究』 通巻 21号, 東日本部落解放研究所, 2008.3
- ・「「指定管理者制度」を読む—博物館に「制度」は何をもたらすのか—」『歴史学研究』 通巻 838号, p.30-38, 歴史学研究会, 2008.3
- ・「政策的隔離草創期におけるハンセン病「療養」者の声—『癩患者の告白』を聴く—」黒川みどり編『〈眼差される者〉の近代—部落民・都市下層・ハンセン病・エスニシティ—』, p.190-218, 部落解放・人権研究所（解放出版社）, 2007.10
- ・「歴史表象における「私」の語り—大阪人権博物館総合展示「私に向きあう日本社会の差別と人権」によせて—」『人民の歴史学』 通巻 172号, p.1-8, 東京歴史科学研究会, 2007.6
- * 「明治初年の〈衛生〉言説—火葬禁止論争をめぐる—」『歴史学研究』 通巻 828号, p.1-16, 61, 歴史学研究会, 2007.6
- ・「明治末期における「隔離医療」と地域社会—ハンセン病療養所全生病院の創設と多摩—」松尾正人編『近代日本の形成と地域社会—多摩の政治と文化—』, p.215-245, 岩田書院, 2006.5
- ・「「越境」する資料館」『中央評論』 通巻 249号, p.24-29, 中央大学, 2004.10
- ・「死せる彼ら／生きるわれわれ—コレラ流行下における遺体処理をめぐる—」森村敏己・山根徹也編『集いのかたち—歴史における人間関係—』, p.194-213, 柏書房, 2004.5
- ・「一九一〇～二〇年代における「保健衛生」施策と地域社会—東京市療養所をめぐる—」大西比呂志・梅田定宏編『「大東京」空間の政治史—一九二〇～三〇年代—』, p.43-67, 日本経済評論社, 2002.11
- ・「「多摩／地域」の近代史を展望するために—多摩近代史研究の今日的課題—」『中央史学』 通巻 26号, p.96-101, 中央史学会, 2000.3
- ・「新聞や雑誌をどう読むか、メディアをどう考えるか—奥武則『スキャンダルの明治』・今西一『メディア都市・京都の誕生』—」（共著）『自由民権』 通巻 13号, p.60-66, 町田市教育委員会, 2000.3

(d) その他

[研究・調査報告書]

- ・『あれからずっと、あれから、ずっと—国立療養所大島青松園在住者の顕彰碑をめぐるその後—』（共著）, 滋賀大学経済学部 Working Paper Series No.211, 2014.6
- ・『父母に抱かれた「聖者」のひと—国立療養所大島青松園在住者の顕彰—』（共著）, 滋賀大学経済学部 Working Paper Series No.208, 2014.3
- ・『信仰とメディア—国立療養所大島青松園キリスト教霊交会という場—』（共著）, 滋賀大学経済学部 Working Paper Series No.197, 2013.7
- ・『自治のオリジン—瀬戸内海の大島における自治活動の手書き日誌—』（共著）, 滋賀大学経済学部 Working Paper No.172, 2012.9
- ・『聖書の生—国立療養所大島青松園キリスト教霊交会という交流の場所—』（共著）, 滋賀大学経済学部 Working Paper No.164, 2012.3

- ・『無教会と愛汗—大島青松園キリスト教霊交会の2つの精神—』（共著），滋賀大学経済学部 Working Paper No. 121, 2009.12
- ・『後続への意志—国立療養所大島青松園での逐次刊行物のその後—』（共著），滋賀大学経済学部 Working Paper No.116, 2009.9

〔書評・新刊紹介〕

- ・（新刊紹介） ネットワーク・市民アーカイブ出版プロジェクト（編）著『ようこそ！市民アーカイブ多摩へ—市民活動の記録を残す運動の歩み—』（ネットワーク・市民アーカイブ, 2020.3）, 『歴史学研究』 通巻 1005号, 2021.2
- ・（書評） 南塚信吾著『「運動」する世界史—19世紀世界の中の日本—』（岩波書店, 2018.11）, 『歴史学研究』 通巻 999号, 2020.8
- ・（書評） 中嶋久人著『首都東京の近代化と市民社会』（吉川弘文館, 2010.12.10）, 『自由民権』 通巻 26号, 2013.3.31
- ・（新刊紹介） 東村山ふるさと歴史館歴史資料係編『全生園の100年と東村山』（東村山ふるさと歴史館, 2009.10）, 『多摩のあゆみ』 通巻 139号, 2010.8
- ・（書評） 小泉雅弘著『下町の学芸員奮闘記』（文芸社, 2005.8.15）, 『江東区文化財研究紀要』 通巻 15号, 2007.3.31
- ・（書評） 小林丈広編著『都市下層の社会史』（部落解放・人権研究所（解放出版社）, 2003.6.20）, 『彦根論叢』 通巻 347号, 2004.2.27
- ・（書評） 大畑哲著『相州自由民権運動の展開』（有隣堂, 2002.9.25）, 『藤沢市史研究』 通巻 36号, 2003.3.31
- ・（新刊紹介） パルテノン多摩編『郊外行楽地の誕生—ハイキングと史蹟めぐりの社会史—』（パルテノン多摩, 2002.8）, 『多摩のあゆみ』 通巻 109号, 2003.2
- ・（新刊紹介） 佐々木寛司編著『茨城の明治維新』（文眞堂, 1999.7）, 『明治維新史学会会報』 通巻 36号, 2000.5
- ・（書評） 稲田雅洋著『自由民権の文化史—新しい政治文化の誕生—』（筑摩書房, 2000.4.25）, 『人民の歴史学』 通巻 149号, 2001.10.18

〔辞書・辞典等の項目執筆〕

- ・宮地正人・佐藤能丸・櫻井良樹編『明治時代史大辞典 第一巻』, 吉川弘文館, 2011.12.20（執筆項目：大矢正夫、神奈川県のうち明治初年農民一揆・民権結社・私立学校、神奈川県大住郡真土村事件, 375、548-551頁）
- ・歴史学会編『郷土史大辞典 上・下巻』, 朝倉書店, 2005.6（執筆項目：共同墓地、結核予防法、済生会、スラム、ドヤ街、避病院、風土病、ホームレス、ルンペン, 467、565、708、962-963、1280、1458、1480、1578、1780頁）

〔その他〕

- ・「2012年度歴史学研究会退会報告批判 近代史部会」『歴史学研究 第900号』, 2012.12.15
- ・「2005年度歴史学研究会大会報告批判 近代史部会」『歴史学研究 第809号』, 2005.12
- ・「町田市立自由民権資料館」『部落解放 第517号』, 解放出版社, 2003.4
- ・「2002年第1回企画展（第四回戦争展）《生・死・祈・祀～戦争とゆらぐ生命～》の記録」『自由民権 第16号』, 町田市教育委員会, 2003.3.31
- ・「座談会 『わたしとわたしたち』を読む」『自由民権 第16号』, 町田市教育委員会, 2003.3.31
- ・「2001年度第1回企画展《罪と罰の文明開化～示された生活ルール～》の記録」『自由民権 第15号』, 町田

市教育委員会, 2002.3.31

- ・「第三回戦争展《軍隊へのまなざし～明治の徴兵と周辺文化～》の記録」『自由民権 第14号』, 町田市教育委員会, 2001.3.31
- ・「第32回大会参加記」『歴史評論 第587号』, 1999.3

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表

- * 「「いきる」ための知・実践における「科学」—近代日本の「癩」をめぐる— (テーマ: 「科学」を問いなおす—福祉・衛生の実践の場から—) 」, 歴史学研究会 2020 年度大会・近代史部会, 2020.12, オンライン
- * 「「われわれ」の歴史から「わたし」たちの歴史へ—「自由民権百年」の底流からたどる—」, 全国自由民権研究顕彰連絡協議会 (全国みんけん連) 第 1 回大会, 2019.10, 大正大学
- * 「「明治」あるいは「日本の近代」をめぐる歴史認識と歴史研究—「明治百年」から「明治 150 年」への史学史試論—」, 第 2 回 東アジア歴史共同研究 シンポジウム, 2019.8, ソウル大学校
- * 「墓地の発明から火葬の勝利へ—フランスにおける死の変容 (18-21 世紀) —」, 日仏会館・フランス国立日本研究所講演会, 2019.3, 日仏会館
- * 「明治を生きた人びとの生・病・死—歴史学者がみる明治の光と影—」, 洋楽文化史研究会第 97 回例会シンポジウム「明治 150 年」と音楽文化—精神の変容と西洋音楽—, 2018.11, 東京大学
- * 「攻囲される子どものからだ—帝国日本の「衛生」問題—」, 第 37 回日本教育史研究会サマーセミナー, 2018.8, 立教大学
- * 「東京西郊地域の近代—19~20 世紀転換期都市の空間編成と医療・衛生施設の郊外化—」, 日韓歴史共同研究シンポジウム 2018, 2018.8, 一橋大学
- * 「歴史研究における「明治」をみる眼—「明治百年」から「明治 150 年」への、ひとつの史学史として—」, 日本史研究会・歴史科学協議会・歴史学研究会・歴史教育者協議会合同シンポジウム「創られた明治、創られる明治」, 2017.3, 一橋大学
- * 「ハンセン病患者・療養者の生と死をめぐる社会的価値—近現代の日本社会における—」, 一橋大学政策フォーラム「尊厳概念のアクチュアリティ」, 2016.10, 一橋大学
- * 「足尾銅山をめぐるふたつの運動—田中正造というメディア—」, 第 19 回日韓歴史共同研究シンポジウム, 2016.8, 一橋大学
- * 「隔離政策下のハンセン病療養所における信仰と交流—香川県大島のキリスト教にみる—」, 第 71 回経済史研究会, 2013.6, 大阪経済大学
- ・ 「「死」をめぐる都市装置—東京における共葬墓地—」, 首都圏形成史研究会第 74 回例会シンポジウム「都市装置からみた 1920~1930 年代」, 2009.5, 日本女子大学
- ・ 「明治前期の「衛生」と規範意識—コレラ騒擾の論理にみる—」, 中央史学会第 33 回大会, 2008.6, 中央大学
- ・ 「「都市」という時空／「故郷」という時空—成田龍一『「故郷」という物語』を読む—」, アジア民衆史研究会 第 4 回研究会, 2002.12, 早稲田大学
- ・ 「「多摩／地域」の近代史を展望するために—多摩近代史研究の今日的課題—」, 中央史学会第 27 回大会シンポジウム「歴史における多摩地域」, 2002.6, 中央大学
- ・ 「明治前期の都市における埋葬と〈衛生〉」, 明治維新史学会第 29 回大会, 2000.6, 江戸東京博物館
- ・ 「結核と東京の都市衛生—健康相談所と伝染病院を中心に—」, 首都圏形成史研究会第 35 回研究会シンポジウム「「大東京」の形成—国家・都市・地域—」, 2000.3, 國學院大学

(b) 国内研究プロジェクト

- ・科学研究費助成事業・基盤研究（A）、「「日韓相互認識」研究の新展開」（研究分担者）、独立行政法人日本学術振興会, 2018.4.1
- ・科学研究費助成事業・基盤研究（B）、「近現代日本における病者・療養者の生—現場での実践、現場からの思索—」（研究代表者）、独立行政法人日本学術振興会, 2017.4.1-2021.3.31
- ・科学研究費助成事業・基盤研究（B）、「ハンセン病問題の多声的記述—「和解の時代」の研究展開」（研究分担者）、独立行政法人日本学術振興会, 2015.4.1-2020.3.31
- ・科学研究費助成事業・基盤研究（A）、「「アジア・太平洋戦争史」の比較と総合：国際的研究教育プログラムの開発」（研究分担者）、独立行政法人日本学術振興会, 2015.4.1-2019.3.31
- ・科学研究費助成事業・基盤研究（C）、「20世紀日本の感染症管理と生をめぐる文化研究」（研究代表者）、独立行政法人日本学術振興会, 2014.4.1-2017.3.31
- ・科学研究費助成事業・基盤研究（A）、「「日韓相互認識」研究の深化・発展のために—東アジア情勢のなかで—」（研究分担者）、独立行政法人日本学術振興会, 2014.4.1-2019.3.31
- ・第9回瀬戸内海文化研究・活動助成、「ハンセン病療養所に〈話のアトリエ〉を編む」（研究代表者）、公益財団法人福武財団, 2014.4.1-2015.3.31
- ・科学研究費助成事業・研究活動スタート支援、「ハンセン病療養所を「開く」知としてのキリスト教」（研究代表者）、独立行政法人日本学術振興会, 2012.8.31-2014.3.31
- ・科学研究費助成事業・基盤研究（A）、「「日韓相互認識」研究の深化のために」（研究分担者）、独立行政法人日本学術振興会, 2012.4.1-2014.3.31
- ・科学研究費助成事業・基盤研究（B）、「ハンセン病研究の新視角—〈隔離〉の知から〈つながり〉の知へ」（研究分担者）、独立行政法人日本学術振興会, 2012.4.1-2015.3.31

(d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

- ・2003年度歴史学研究会近代史部会、「科学と帝国」, 2003.5, 趣旨文は『歴史学研究』通巻775号（2003.5）に掲載

6. 学内行政

(B) 学内委員会（ただし、入試出題・採点委員はのぞく）

- ・学生委員（2015年4月～2017年3月）

(C) 課外活動顧問

- ・サイクリング部（2016年1月～）

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師等

- 2006年4月 東京外国語大学大学院地域文化研究科非常勤講師（～2009年3月）
- 2009年4月 首都大学東京都市教養学部非常勤講師（～2009年9月）
- 2009年10月 東京外国語大学外国語学部非常勤講師（～2010年3月）
- 2010年4月 首都大学東京都市教養学部非常勤講師（～2012年9月）
- 2010年10月 東京外国語大学大学院総合国際学研究所非常勤講師（～2011年3月）

2011年10月 東京外国語大学外国語学部非常勤講師 (～2012年3月)
2011年10月 東京外国語大学大学院総合国際学研究科非常勤講師 (～2012年9月)
2012年4月 中央大学文学部兼任講師 (現在に至る)
2012年10月 東京外国語大学国際社会学部非常勤講師 (～2013年3月)
2013年4月 首都大学東京都市教養学部非常勤講師 (～2013年9月)
2013年8月 滋賀大学経済学部非常勤講師 (～2013年8月)
2013年10月 東京外国語大学国際社会学部非常勤講師 (～2014年3月)
2014年4月 首都大学東京都市教養学部非常勤講師 (～2014年9月)
2014年10月 東京外国語大学国際社会学部非常勤講師 (～2015年3月)
2015年4月 首都大学東京都市教養学部非常勤講師 (～2015年9月)
2015年10月 東京外国語大学国際社会学部非常勤講師 (～2016年3月)
2016年4月 首都大学東京都市教養学部非常勤講師 (～2016年9月)
2016年10月 東京外国語大学国際社会学部非常勤講師 (～2017年3月)
2017年4月 首都大学東京都市教養学部非常勤講師 (～2017年9月)
2017年10月 東京外国語大学国際社会学部非常勤講師 (～2018年3月)
2018年4月 首都大学東京人文社会学部非常勤講師 (～2018年9月)
2018年10月 東京外国語大学国際社会学部非常勤講師 (～2019年3月)
2019年4月 首都大学東京人文社会学部非常勤講師 (～2019年9月)
2020年4月 東京都立大学人文社会学部非常勤講師 (～2020年9月)

(b) 所属学会および学術活動

- ・日本歴史学協会
常任委員 (2018年7月～)
若手研究者問題特別委員会幹事 (2018年7月～)
- ・歴史学研究会
事務局長 (2014年5月～2017年5月)
委員 (2005年5月～2007年5月)
- ・日本史研究会
- ・東京歴史科学研究会
- ・民衆史研究会
- ・アジア民衆史研究会
- ・首都圏形成史研究会
常任委員
- ・明治維新史学会

(c) 公開講座・市民講座

- ・「記憶を伝える資料たち—ハンセン病の記録から考える—」, 国立市公民館, 2020年1月12日
- ・「近代の古文書を読む—地域有力者の手記にみる明治の多摩—」, 国立人文研究所, 2012年12月11日
- ・「日清・日露戦争と町田の青年たち—明治後期の町田②—」, まちだ市民大学 HATS, 2019年11月1日
- ・「多摩が経験した近代・現代—「くにたち」は神奈川県だった!?!—」, 国立市公民館, 2019年9月29日
- ・「多摩1000年のあゆみをたどる—「くにたち」をはぐくんだ土壌—」, 国立市公民館, 2019年9月22日
- ・「つくられた「近代」と多摩の教育」, 恋ヶ窪公民館 (国分寺市), 2019年2月5日

- ・「『文明開化』と多摩の民衆—失われた生活文化—」, 恋ヶ窪公民館 (国分寺市), 2018年10月30日
- ・「村の『文明開化』の姿をさぐってみる—地域の人びとにもたらしたもの—」, まちだ市民大学 HATS, 2018年6月26日
- ・「明治維新とは何だったのか—はじめに『明治維新』を学んでみる—」, まちだ市民大学 HATS, 2018年4月17日
- ・「三多摩=格差というイメージのなかで」, 国立人文研究所, 2017年12月4日
- ・「押しよせる『東京』」, 国立人文研究所, 2017年11月6日
- ・「生・病・死、生存の歴史学—ハンセン病療養者の生という問い—」, 明治大学リバティアカデミー, 2017年11月6日
- ・「あるべき『多摩』を求めて」, 国立人文研究所, 2017年10月2日
- ・「はじまりの武蔵、そして神奈川」, 国立人文研究所, 2017年9月4日
- ・「日清・日露戦争と慰霊」, 町田市立自由民権資料館, 2017年9月3日
- ・「谷保? やほ? ハケ?—国立のルーツを歩いてみよう—」, 国立人文研究所, 2017年8月26日
- ・「橋樹の民権家、井田文三とその同志たち」, 町田市立自由民権資料館, 2016年11月20日
- ・「国立駅前から、戦争と地域を考える」, 国立人文研究所, 2016年7月25日
- ・「大学通りから、都市化の磁場を考える」, 国立人文研究所, 2016年7月11日
- ・「谷保から、『進むべき道』をめぐる地域政治を考える」, 国立人文研究所, 2016年6月13日
- ・「谷保から、近代の来た道を考える」, 国立人文研究所, 2016年5月9日
- ・「五日市憲法の世界—五日市憲法とその時代—」, ランちゃんトーク, 2016年7月13日
- ・「なぜいま、五日市憲法なのか—五日市憲法と戦後日本—」, ランちゃんトーク, 2016年7月4日
- ・「小島鹿之助(為政)とその同志たち—幕末・明治期の地域リーダー【小野路編】—」, まちだ市民大学 HATS, 2016年5月25日
- ・「江本安一—のいた島で—香川県大島における『青木恵哉』—」, 沖縄愛楽園交流会館, 2016年3月6日
- ・「近代化と伝染病対策—『衛生』規範とその受容を中心に—」, くにたち郷土文化館, 2015年11月22日
- ・「日清・日露戦争と町田の青年たち—明治後期の町田(2)—」, まちだ市民大学 HATS, 2015年11月10日
- ・「田中正造とその時代」, 鈴木賢二研究会, 2015年3月14日
- ・「近代を考証する—『足尾から来た女』での経験から—」, 時代考証学会, 2015年2月21日
- ・「市民発の情報が社会を変える—市民活動のアーカイブの可能性—」, ネットワーク・市民アーカイブ, 2015年1月11日
- ・「自由民権運動と困民党事件—明治10年代の町田—」, まちだ市民大学 HATS, 2014年9月28日
- ・「『東京』と向きあう地域社会の近代—多摩から考える—」, 一橋大学社会学部・読売新聞立川支局, 2014年9月20日
- ・「歴史研究のなかの自由民権運動／市民のなかの自由民権運動—これまでとこれからを考える—」, 大阪人権博物館, 2014年9月6日
- ・「川崎の自由民権運動—上田・井田・鈴木—」, 川崎市市民ミュージアム, 2014年7月5日
- ・「明治維新と文明開化—明治初年の町田—」, まちだ市民大学 HATS, 2013年9月29日

(d) 高校生向け出張講義・模擬講義

- ・「部落・民権・キリスト教—明治の横浜から考える—」, 神奈川県立横浜翠嵐高等学校, 2019年12月10日, 神奈川県立横浜翠嵐高等学校
- ・校外研修(スーパーサイエンスハイスクールにおける学術研究プログラム)への対応, 仙台第一高等学校, 2019年7月11日, 一橋大学

- ・「地域から考える自由民権運動—神奈川県を起点として—」, 日本史サマーセミナー2018、2018年8月19日, 鎌倉学園高等学校
- ・「被差別部落の近代が問いかけるもの—神奈川県の部落から—」, 柏陽高校サマーセミナー, 2017年8月22日, 神奈川県立柏陽高等学校

(e) その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）

- ・「歴史学の研究手法・環境とオープンアクセス—日本近現代史研究の現場から—」, 第2回 SPARC Japan セミナー2013, 2013年8月23日, 国立情報学研究所
- ・「信仰とメディア—キリスト教霊交会という場—」, 第60回四国地区人権教育研究大会, 2013年7月11日
- ・「部落差別とキリスト教・自由民権運動—山上卓樹を中心に—」, 日本基督教団神奈川教区部落差別問題小委員会, 2012年9月29日

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

- ・ 国立市情報公開及び個人情報保護審議会
 会長（2021年2月1日～）
 会長職務代理（2019年2月1日～2021年1月31日）
 委員（2015年2月1日～2019年1月31日）
- ・ 国立市図書館協議会
 副会長（2020年11月1日～） / 委員（2018年11月1日～2020年10月31日）
- ・ 国立市社会教育委員の会 委員（2019年5月～）

9. 一般的言論活動（新聞や各種メディア）

- ・「歴史を訪い、歴史から問う—「コロナ禍」なるものを検証するために—」『アーカイブ通信 第20号』, ネットワーク・市民アーカイブ, 2020.11.1
- ・「いまにつながる地域の民主主義 新井勝紘著 五日市憲法」『しんぶん赤旗 第24278号』, 2018.8
- ・「足尾から来た女」（時代考証）, NHK（土曜ドラマ）, 2014.1.18・25
- ・「間蔵Ⅱビジュアル 明治・大正期データベース」（データベース構築）, 朝日新聞社, 2010.4.～
- ・「東京都 町田市立自由民権資料館」『古文書通信』, NHK 学園, 2004.5
- ・「車窓の「風景」—小田急複々線化を考える—」『多摩文化』, 多摩区文化協会, 2003.3
- ・「違式註違条例の世界 企画展「罪と罰の文明開化」によせて」『毎日新聞』, 毎日新聞社, 2001.8.27 夕刊
- ・「「たたかう」ことの難しさ—国本衛さんの講演を通して考えたこと—」『チマ・チョコリ友の会ニュース』 通巻34号, 2001.2